

「確かな学力」を身につけさせる学習指導の研究

～「学級力」を高め、主体的・対話的で深い学びの実現による授業改善を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

- ・学級活動の時間を中心に、「学級力」を高める工夫を行うことにより、子どもたちにとって居心地のよい、安心して学習に取り組める学習集団、主体的に課題解決に向かう学級集団を築いていく。
- ・各教科（特に今年度は算数を中心として）において、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を通して、子どもたちに学ぶ喜びや達成感を持たせ、確かな学力を身につけさせる。

2 研究の具体的内容

- (1) 「学級力」を高めるための研究
 - ①学級力向上プロジェクトに関する学習会
→担任が、「学級力向上プロジェクト」を行う上での力量を高める。
 - ②学級力向上プロジェクトの実施
→子どもたちが自分たちでクラスをよくしていこうとする主体性を育てる。
 - ③学級力向上プロジェクトの実践交流
→各学級の取り組みを交流し、職員同士が学び合う。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究（特に算数科において）
 - ①主体的な学びをつくりだす課題設定・課題提示方法等に関する研究。
 - ③算数科の特質に応じた言語活動の充実に関する研究。
 - ④算数科における「見方・考え方」を鍛える指導法の研究。
 - ⑤毎時間の振り返り活動の充実と、その評価の充実に関する研究。

3 研究実践

- (1) 学級力向上プロジェクトの実践とその成果の交流
- (2) 授業研究（2回）

- ①第1学年 算数科「ひきざん」 武藤 有希 教諭
指導助言：山梨大学教育学部 清水 宏幸 准教授 他1名
- ②第5学年 算数科「整数の性質を調べよう」 佐野 理恵 教諭
指導助言：山梨大学教育学部 清水 宏幸 准教授 他1名

- (3) 1人1実践の公開授業

- ・主体的・対話的で深い学びをつくりだす学習活動の工夫を取り入れた実践

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・学級力向上の取り組みによって、クラスの課題が明確になり、改善のための方法を子ども達と話し合うことで、自らの学級を安心して学習に取り組める学級集団へ高めようという意欲が見られた。
- ・「学級力向上プロジェクト」の実践報告会を行うことで、「集団としての成長」を児童自身が実感できるような「見える化」の手立てを共有することができた。
- ・「めあて」等の板書シートを全校統一したことで、「やまなしスタンダード」を、より一層意識するよようになった。
- ・児童が興味をもつ課題設定や、前時との相違点を明らかにした上でのめあての設定など、導入を工夫した授業を仕組むようになってきた。
- ・意識的に「対話的な学習」を仕組むようになり、ペア・小集団等で児童の意見交流が、自然にできるようになってきている。
- ・相互解決の場面で、「問い返し発問」等、教師のコーディネートにより、児童の思考に深まりが感じられるようになってきた。
- ・2本の研究授業に向け、すべての職員が当事者意識をもって指導案検討に臨み、また模擬授業やプレ授業を行うことで、主体的・対話的で深い学びに迫る授業をつくり上げることができた。
- ・研究授業後の研究会では、指導主事や大学教授などによる指導助言者により、研究が深まった。
- ・指導主事や大学教授を講師とに迎え、学習会を開催したり、示範授業を行っていただいたりしたことで、おおいに見識を深めることができた。

2 課題

- ・授業時間45分の中で、学習感想を書く時間を確保することは難しい。どう授業時間内に位置付けていくか。
- ・「児童の振り返り」の質の充実や、「教師の評価」の充実という面までは、全校的な取組ができなかった。
- ・誤答を積極的に取り上げる発問の仕方を学んでいきたい。
- ・算数の特質に応じた言語活動の充実を図るためには、どうしたらよいか。
- ・数学的な「見方・考え方」を鍛える指導の充実を図るためには、どうしたらよいか。

Ⅱ 成果物

- 1 研究授業指導案（2本）・1人1実践指導案
- 2 板書プレート（全校統一規格）
- 3 教室掲示資料（学習感想の書き方例）
- 4 算数ノート貼付資料（算数言葉）
- 5 数学的な「見方・考え方」を鍛えるための指導言例集（教師用ラミネート資料）
- 6 学力向上に特化した学校だより「日下部のまなび」年間12号（発行予定）

（研究主任 川崎 剛）